

第11回 熱海写真俳句撮詠物語 作品展



年の瀬やWTC夢のよう

今年の暮がいつの日か、夢の中で見えた。WTC Trade Center（双子の塔）の光景が、一瞬、眼前に現れてしまった。去年の暮もそう、今年もまた、同じ光景が見える。光景は夢のようだが、それは夢ではない。それは現実の光景だ。去年も今年も、同じ光景が見える。それは夢ではない。それは現実の光景だ。



秋夕焼暮も輝れにからさ言ふ

秋夕焼暮の山をむきかきで、静かな夕焼けを眺めたい。でも、山が邪魔で、静かな夕焼けを見ることができない。でも、山が邪魔で、静かな夕焼けを見ることができない。でも、山が邪魔で、静かな夕焼けを見ることができない。



望みの丈さるけ出したり秋の雲

秋の海が望みを届けてくれた。望むほど遠くまで届いた。望むほど遠くまで届いた。望むほど遠くまで届いた。



地球や小人の國のすべり音

地球の音も、小人の音も、同じ音だ。地球の音も、小人の音も、同じ音だ。地球の音も、小人の音も、同じ音だ。

会員8名
24
作品展



戦争の始まる前夜に秋を待つ

戦争が始まる前夜、秋を待つ。秋は、戦争が始まる前夜、秋を待つ。秋は、戦争が始まる前夜、秋を待つ。



雫い三つ蓮三輪に揺けたり

蓮の葉の音、蓮の花の音、蓮の葉の音。蓮の葉の音、蓮の花の音、蓮の葉の音。蓮の葉の音、蓮の花の音、蓮の葉の音。



秋日和主人庭へに遠慮まで

秋日和、主人の庭へ。遠慮まで、秋日和、主人の庭へ。遠慮まで、秋日和、主人の庭へ。



花をやみに生きたきことよ草の花

花をやみに生きたきことよ草の花。花をやみに生きたきことよ草の花。花をやみに生きたきことよ草の花。

開催期間 2023年11月1日～7日
発表場所 当会ホームページ

熱海写真俳句撮詠物語

ご挨拶

当会も、発会し11年となりました。昨年までの10年間、作品展を熱海・起雲閣で行ってまいりました。当時、会員は熱海に住んでおりましたが、現在は市外のネット会員となっております。そんなことから今回11回より「WEB展示会」として開催することにしました。初めてで手探りの展示会となりましたが、今後更に工夫し、年に一度のイベントとして、これからも行っていきたいと思います。

本年7月24日、当会の名誉顧問をお受けいただきました森村誠一先生が、90歳で肺炎の為に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（追悼句掲載）

展示会は、会員8名から、この一年に投句頂いた作品、ないしは新作品を合わせた24作品です。なお、A5判小冊子を作り記念と致します。

熱海写真俳句撮詠物語会長 久恒仰平



* 展示は俳号順




美立ちかな攝壇広現わる 

龍が池を飛び、草が風に揺れた。
静かな朝の光景が目に映った。
自然の美しさを捉えたい。
遠くへ旅をしよう。

平山 龍彦



年の瀬やWTC夢のよう 

三十五年前NY 時代、夢想的だった World Trade Center (ダブルアイランドの七塔) は
崩壊もして、一途に建った高層ビルもなくなってしまった。
先年の暮を境って、ダブルアイランドの七塔が、
一向に崩がよがらない、ダブルアイランドの七塔が
五十年の歴史を築いた建物のワンショット。



秋めきて暮色蒼蒼多賀の磯 

夕陽が沈み、空が赤らむように
なってきた。夕陽が沈むから
多賀の磯に、夕陽が落ちた。
夕陽が沈むから多賀の磯に
夕陽が落ちた。



久恒仰天

HISATUNE GYOUTEN

東京都町田市



巣立ちかな孫喉仏現わるる

孫が四年生に。背が急に伸び出した。
時々難しい言葉も使うようになった。
国語辞典の引き方を教えたら、
直ぐに他の言葉を。

そろそろ巣立ちか。



秋めきて暮色蒼然多賀の磯

やっと少しずつ秋が感じられるようになってきた。ウッドデッキから見下ろす多賀の磯にも。夕陽が落ちだした。

135号線を走る車のヘッドライトが浮かび上がってきた。



年の瀬やWTC夢のよう

ダブリュテイシイ

三十五年前NY時代、事務所の在った World Trade Center (ダブリュテイシイの七音) は跡形もなく、一緒に働いた親友も逝ってしまった。先輩の跡を追って、デジカメを始めたが、一向に腕が上がらない。デジカメ教室の撮影会 玉川大学咸宜園で撮った追憶のワンショット。



上風にさわぐ流穂や藤の花 


初夏の藤園に絡みついていく藤の花が満開を迎えた。遠望より低い場所なので、藤園を高い位置から見下ろすことができる。風が吹くと藤の花の動きがまるで波の動きのように流石つゆに見えるのは新鮮な感覚！



憐い三つ蓮三輪に預けたり 

蓮池の蓮の花三輪が唯一月に綺麗に並んでいる。この高になっても色んな角度は決まらない。まあ、後悔しても遅いので、「憐い」は足りあらずこの蓮の花に一時預けて。今は無事に綺麗なお姿を見せてくれる蓮の花を羨しもうてはないが。



憐恨も躊躇ひもなし沙羅帯花 

憐みつらみもなし、躊躇ひもなし、沙羅帯の花は一目を見事にのび咲いて、言葉に頼り預けに落ちる。人が作れぬ美しさを誇るだろうが、沙羅帯の花は決して知らぬこと。無常、無常、の無常な運命。



吉田木練
YOSHIDA KONERI

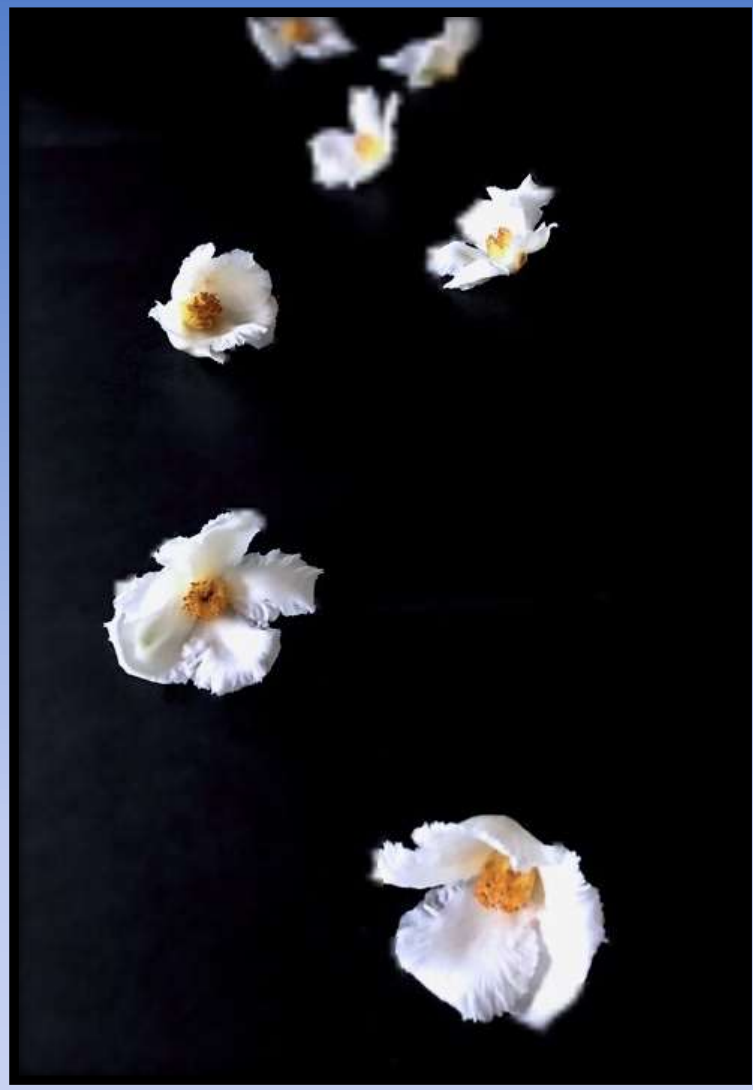
奈良県御所市



悔い三つ蓮三輪に預けたり



蓮池の蓮の花3輪が縦一列に綺麗に並んでいる。この歳になっても色んな悩みは尽きない。まあ、後悔しても始まらないので、「悔い」はとりあえずこの蓮の花に一時預けて、今は無心に綺麗な姿を見せてくれる蓮の花を楽しもうではないか。



悔恨も躊躇ひもなし沙羅落花



恨みつらみもなし、躊躇いもなし、沙羅の花は一日を見事に白く咲いて、見事に事も無げに落ちる。人がそれを儂さとするだろうが、沙羅の花にとっては知らぬこと。無言、無音、の見事な落花。



上風にさわぐ波穂や藤の花



町中の道路脇に植えられている藤の花が満開を迎えた。道路より低い場所なので、藤棚を高い位置から見下ろすことができる。風が吹く度に藤の花の動きがまるで波の畝りのように波打つのを見れるのは新鮮な感覚！



富士や雪を子細に映境 

静岡のシンボルを写けて支那に映れる富士の雪は輝くという美しさだ。静岡の雪景で選んだという。自然一の富士山です。



緑陰や小人の園のすべり台 

人の目を惑わせるように、遊び場の隅にすべり台があった。誰もいない。多分小人たちが遊んでいるのであろう。



色香まだこの世に止め落種 

枯れ木や葉を踏み替えて、種は落ちるまで11月の美しさを留めている。



小宮 里
KOMIYA SATO

静岡県長泉町



雪富士や襞を子細に県境



静岡のトンネルを抜けて左側に現れる富士山
その襞は何という美しさだ。皆様にぜひ見て頂
きたい！ 日本一の富士山です。



緑陰や小人の國のすべり台



人の目を逃れるように、遊び場の隅にすべり台が有った。誰もいない。多分夜小人たちが遊んでいるのであろう。



色香まだこの世に止め落椿

枯れ木や草を褥に替えて、椿は落ちても未だにその美しさを保っている。



巻物をゆっくり溶かす角砂糖 

「もう、ダメだね……」長年病を患って来た人の
の息をならせ、涙を拭き拭き、いつかの日にもっと
まことに愛を贈る。優しい角砂糖一つでいい。その愛
を溶かすように、溶かされるように願いを込めて。溶か
してはスプーンを握り、お菓子を作りたい。角砂糖
加工手帳に、ゆっくりと溶かす角砂糖を溶かすように、角
砂糖を溶かす手帳を手に取りたい。



たまやかに生きたきことよ草の花 

我が家の庭に、つる性の可愛らしい小さな花が咲い
ている。春やりにしながら、今日は美しく咲かせた
事に感謝し、嬉しくて咲いている花からもおまされ
ている。花の名は、草花を運ぶ草花「草花の草」
で、ヘブライ語で「草花」を意味する「カマン」の
和訳家本野先生の命名である。別名に「カマン」が
ある。草花成分もあるようだ。花言葉は「人懐い」
である。



満き目の巻物を解く夏帽子 

20年前の夏帽子である。デザインと色調
は作られた。本職に感謝しながら現存であ
る。おつめのペリカリス巻物の巻物も同様、
深層に包み込んでいる。この帽子は、20年前の
記憶を思い出させる。当時の巻物を使った
巻物、一冊の巻物に包み込んでいる。巻物の巻物も
なつたものを解いて解いて、おつめした。



久喜更紗
KUKI SARASA

愛知県名古屋市



春愁をゆっくり溶かす角砂糖



「もう、ダメだね・・・」長年積み重ねてきたものへの答えならば、余りにも悲しい。いつものコーヒーがことさらに苦味を増す。硬い角砂糖を一つ入れた。その言葉を溶かすように、消え去るように願いを込めて、ゆっくりとスプーンを回す。大事なことからこそ、行動を起こす前に、じっくりと次の言葉を待たせよう。甘いコーヒーを飲み干すとほろりと涙がこぼれた。



たをやかに生きたきことよ草の花



我が家の垣根に、つる状の可愛い白い小花が咲いている。水やりをしながら、今日も恙無く過ごせた事に感謝し、頑張っ咲いている花からも励まされている。花の名は、草花を活ける華道「華原の会」で、ヘクソカズラと判明。朝ドラの「らんまん」の牧野富太郎先生の命名である。別名にヤイトバナがある。薬効成分もあるようだ。花言葉は「人嫌い」である。



遠き日の恋を紐解く夏帽子



30年前の夏帽子である。デザイナーと相談し作ったもので、大事に補色しながら現役である。かつてのベージュ系含めて5種類を外出時、洋服に合わせている。この帽子は、JR東海のCMでお馴染みの時代。当時遠距離恋愛中だった私を、一瞬胸キュンとさせた。恋の空白も長くなったものと改めて鏡の前で、かぶり直した。



鈴木驟雨
SUZUKI SYU-U

愛知県名古屋市




秋夕焼君も帰れとカラス言ふ



あきゆやけ

奈良県生駒の山寺をひとりで散策。
綺麗な夕焼けをいつまでも見ていたいところですが、このまま真っ暗になっては帰り道が不安です。カラスの羽音がバサバサッと大きく響きます。お邪魔しましたと言って帰りました。



赤き実あかきみに母ははの面影おもかげ秋あき深こし 

赤い鳥あかいとり小鳥こどり
なぜなぜなぜなぜ赤い
赤い実あかきみを食たべた

赤い実を見れば、歌わずにはいられない。
若き日の母も、そうだったのかもしれない。



宿坊の異国になりぬ秋の朝



奈良の宿坊に宿泊。
参詣者のほとんどが外国人で、どこか不思議な
光景でしたが、言葉など関係なく、皆で美しい
日の出を堪能しました。



なるやうになるのが命生持若葉 

日に消える持葉を度でいると持葉も何となく少し赤葉がらもります。



馬ひの丈さうけ出したり秋の雲 

朝の海岸雲が一面に広がる時は秋大でした
馬ひの丈も合せた次第です



通舞の村この目ばかりと祭 

「おきも祭の村の目ばかりと祭
舞と目ばかりの目ばかりと祭
目ばかりです。



堀江忠彦

HORIE TADAHIKO

東京都品川区



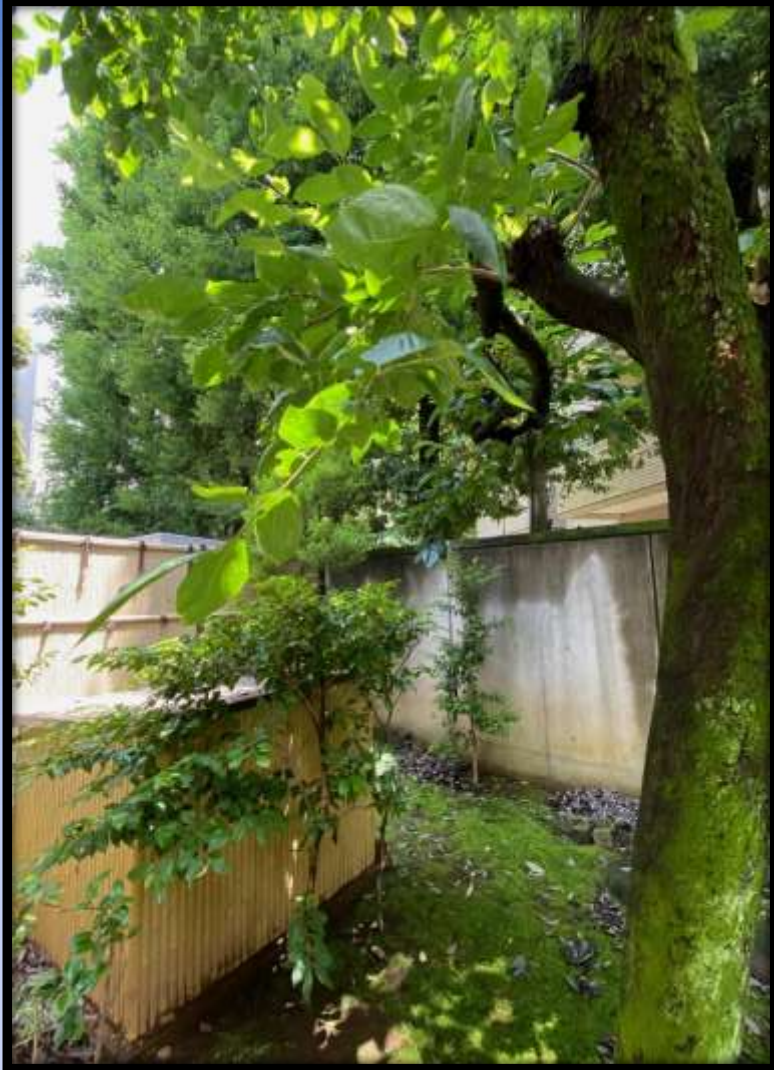
思ひの丈さらけ出したり秋の雲 


朝の海岸雲が一面に広がる様は壮大でした
思わず手を合せた次第です。



過疎の村この日ばかりと祭笛


小さな部落の小さな祭りですがやはり熱気と言うか凄まじいほどのエネルギーを感じた次第です。



なるやうになるのが余生柿若葉 

日に当たる柿若葉を見ていると我余生も何となく少し希望がもてそうです。



秋の恋小僧しらりと愛おしきり 


秋祭典となり、高から種々なおまけのりでも、あまの氣にせず、どこ行く風のように聞けるようになります。



秋日和主人迎へに満ちまで 

秋の行楽日和に善へ遊びに行きました。満ちた秋が響くと、おこぼれの集を裏おうと種が集まってきました。



緑蓮や雨霞のなほ音く 

どすロープに滑り滑るを音ている音を聞かれます。その音が響いた、雨の音に響かす。音ではじめられた音ですが、毎年、秋風が過ぎる音り流し、音にまみれを音っています。音空響けようが、音に響く音の音に響かす音のように音響かす音で響かす音ています。



小野蝶花
ONO TYOUKA

香川県三豊市



睡蓮や雨粒集めなほ青く



ビオトープに青い睡蓮を育てている老夫妻がおられます。モネが愛した青い睡蓮に惹かれて、育てはじめられたそうですが、毎年、時期が過ぎると掘り返し、春にまた植えるそうです。重労働でしょうが、見に来てくれる人に喜んでもらえるようにと丹精込めて育てられています。



秋日和主人迎へに漁港まで



秋の行楽日和に島へ遊びに行きました。漁を終えた船が着くと、おこぼれの魚を貰おうと猫が集まってきていました。



秋の空小言しらりと交わしをり



熟年夫婦となり、夫から嫌なことを言われても、あまり気にせず、どこ吹く風のように聞けるようになりました。



矢崎歩人

YAZAKI HOBITO

京都府木津川市



戦争の無き世を願い秋を待つ 

ウクライナ、ロシアの戦争が終わらない。世界が混乱し、多くの犠牲者と共に自然破壊とその範囲を広げている。大きな岩に掘られた仏様。そんな世界を凝視している。そのお姿は静かだが、その心中は穏やかでなく、深い悲しみと同時に早くに終わることを願っているに違い無い。



木漏れ日のまばゆき緑苔しのぶ



仲秋の唐招提寺を訪れた。今年はこの時期でも30度を超える日々が続く異常な年。この日も日差しが強く暑かった。唐招提寺は多くの樹木が茂る寺。中でもここ鑑真和上霊廟には苔の庭があり、生い茂った高木を通した木漏れ日が手入れされた苔を美しく見せている。「夏の苔」も時を延長し、未だ涼しく私たちを迎えてくれた。感謝！



良き明日の兆しとなりぬ冬茜



二つの水平雲が並行して海上に浮き、その間を塗りつぶしたかの様な赤い空と、橙色の空、そして青い空へとつながって伸びている。そんな美しい景色を見ていると、「明日はきっと素晴らしく良き日となるのだろうか」と明るい気持ちになり安堵する。

森村先生追悼句

会員作品



発行
題名
開催日
編集
発行者
発行所

令和5年(2023)11月1日
第11回熱海写真俳句撮詠物語作品展
令和5年(2023)11月1日~7日
矢崎英夫
久恒仰平
写心菜工房
京都府木津川市南加茂台1-9-16
連絡先 080-3217-3297



第11回熱海写真俳句撮詠物語
作品展

2023-11-1~7